
寄 生 虫 検 査

動 向

今年度は受検学校数802校、受検者数は129,560名となり、前年比13校減、5,557名減少となった。ぎょう虫卵陽性者の割合は前年度と同様に1%を下回り、0.04%であった。同様に寄生虫（ぎょう虫）ゼロの学校の割合も全体で96.51%となり、ぎょう虫卵検査の本来の目的を達成しつつある。

寄生虫検査は当会設立以来最も歴史のある検査であり、神奈川県下の寄生虫予防に寄与してきた。昭和30年1月、任意団体として神奈川県寄生虫予防協会として発足。設立の当初から、検査だけを行うのではなく検査と共に、寄生虫予防の知識や思想を普及させる運動体として活動をしてきた。

平成26年4月の学校保健安全法施行規則の一部改正により、児童生徒等の健康診断に係る寄生虫卵の有無の検査が必須項目から削除され、平成28年4月1日から施行されることとなった。これに伴い、当協会が受託している寄生虫検査についても、一部団体を除き今年度をもって受託を終結することとした。

当協会ではぎょう虫卵検査に限らず学校保健分野の検診、検査において従来の形を踏襲するだけでなく、学校現場の要望に応え、行政、医師会等と連携を保ち、社会の変化に対応できる検査態勢を今後も進めていく。

方 法

ぎょう虫検査

ぎょう虫は、体内では産卵せず肛門周囲に出てきて産卵するため、通常の糞便塗抹検査では検出できない。ウスイ式セロハンテープによる二日連続採卵法で検査を行い、肛門周囲に産卵されたぎょう虫卵を検出している。この検査はセロハンテープを肛門周囲に当ててぎょう虫卵を貼り付けるという原理で、かつぎょう虫が毎日産卵するとは限らないので2日間連続して採卵するというものである。

検査を受けるにあたっては朝起きてすぐに、検査紙を肛門周囲にあてる。排便後では肛門周囲が拭き取られるために検出率が極端に低下するので注意が

必要である。

精度管理

顕微鏡検査による見落としを防ぐため一度検査したものを再検査するとともに、毎日の陽性率をチェックし、大きな変動がないかを確認している。

結 果

表3に27年度の幼稚園・小学校の市町村別ぎょう虫検査成績を示した。小学校での受検者は56,401名で陽性者（保卵者）は35名、陽性率は0.06%だった。26年度と陽性率は変わらなかった。大部分の市町村は横ばいあるいは減少傾向にあるが、海老名市は0.01%から0.04%とわずかながら増加した。

幼稚園の受検者は72,032名、陽性者（保卵者）は5名、陽性率は0.01%、26年度と変わらなかった。このうち公立幼稚園の陽性者は0名、私立幼稚園は5名であった。

平成12年度から27年度の小学生ぎょう虫陽性率の年次推移は、12年度から15年度にかけて1.0%から0.46%と大きな割合で減少し、15年度から20年度にかけては0.46%から0.11%と緩やかに減少した。さらに20年度から24年度は0.1%前後で横ばいを維持していたが、27年度は0.06%と減少した。また、幼稚園の陽性率は平成12年度の0.53%から徐々に減り続け19年度に0.1%となり27年度は0.01%と減少した。

ぎょう虫陽性率の推移を見ると、毎年着実に減少してきた。小学生では平成19年度から毎年0.1%前後で推移しており、幼稚園では20年度に初めて0.1%を切って以降も減少傾向が続き、27年度は0.01%と減少している。このままぎょう虫症が終息に向かうのかどうか、今後のぎょう虫卵陽性率の動向が注目される。長年実施してきたぎょう虫検査の効果が実証されつつある。

関係の集計表は156頁に掲載
